

故人が好きな 宇宙のブルー

花々の祭壇と、生前の松井学長(21年大学案内から)



NEWS CIT

2023
5.15

ニュースシーアイティ

千葉工業大学・入試広報部
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼
2丁目17番1号
TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344

<https://www.it-chiba.ac.jp/>

毎月1回(8月を除く)15日発行

ニュースガイド

- 2面 松井学長生前の日々写真/山之内さん情報処理学会で学生奨励賞/秋山さん優れた体験設計認証/入江主席研究員がロボシン優秀賞/危険業務従事者叙勲に甲田氏、富永氏
- 3面 令和5年度予算案を承認
- 4面 新任紹介/出版案内

松井学長 お別れの会



祭壇に献花し、手を合わせる参列者たち



菅前首相(左端)を迎える瀬戸熊理事長や松井夫人(右端)



会場に飾られた思い出の学長写真に見入る人々

会場の「平安の間」に設けられた祭壇は、宇宙空間を連想させる美しいブルーの花々に彩られた。午前11時に開式。会場には礼装姿の人々が続き、20年6月から第13代学長として本学を牽引した松井学長に、白い花々が捧げられた。

瀬戸熊修理理事長は「地球そして生命の起源を知り、未来を探り、人類にとって新たな『知』の世界を切り拓いていくことを目標にするというスゲ

ールの大きい考えは、故郷でしか発想できないのではないのでしょうか。責務をひたすらこなし、故郷松井学長の貴美恵夫人らとともに、参列者一人ひとりと感謝の言葉を交わした。

故松井学長からPERCを引き継いだ荒井朋子所長は「ゼロからのPERC立ち上げに関わらせていただきました。最初は松井先生を含めて7人。今は36人と松井先生の方で大きくしていただきました。それを今後どう

う守りつつ、さらに発展させていくか。責務をひたすらこなし、故郷松井学長の貴美恵夫人らとともに、参列者一人ひとりと感謝の言葉を交わした。

国立天文台の竝木則行教授は、PERC開設時の副所長として松井学長と歩みを共にしてきた。「あつという間に人や設備を整え、センターをつくっていく姿に圧倒されました。今、宇宙開発や惑星探査は曲がり角にきていると思います。一番、松井学長らしいところで離られたのかも

れません」とのんだ。

故松井学長は宇宙航空研究開発機構(JAXA)をはじめ、米航空宇宙局(NASA)、欧州宇宙機関(ESA)など国内外の国家的プロジェクトと連携した活動や、本学独自の研究で数え切れない功績を残した。

JAXAの小惑星探査機「はやぶさ2」のプロジェクトマネジャーを務める津田雄一教授は「大学で専門を選ぶ前に読んだ本の著者が松井先生で、宇宙に興味を持った入り口の1つでした。私たちは目の前の宇宙ミッションに取り組んでいるのですが、松井先生は宇宙事業や宇宙科学に限らず、大きい世界の中にきちんと位置つけてくれる方。若い人にいろいろなステージを残していただいた。それをしっかり果たしていくのが恩返しなのかと思います」と、松井学長に敬意と謝意を表した。

「千葉工大で好きな研究ができて幸せ」
貴美恵夫人

お別れの会には、菅義偉前首相や、20年に本学を文部科学大臣として視察した萩生田光一・自民党政調会長、松本剛明総務大臣、河野太郎デジタル担当大臣、高市早苗・経済安全保障担当大臣ら各界の著名人も参列。会場の大スクリーンに映し出された松井学長の足跡記録映像や折々のスナップを見て哀福を祈った。

閉式後、貴美恵夫人は「本当に感動しました。皆様方のお力でここまでやっていただけて本当にありがたいと思います」と会葬者らに感謝。「祭壇は宇宙の雰囲気があり、ブルーが好きな主人はとても喜んでおられます。また、千葉工業大学でも好きな研究ができて、本当に幸せだったと思います」と語った。

松井氏生前の日々 生命、文明の起源を追って

死去の日に瑞宝重光章 高市早苗氏は4月19日、SNSで、松井氏が死去の日付で従四位に叙され瑞宝重光章II写真下IIを追贈されたと報告。「内閣府宇宙政策委員長代理や宇宙科学・探査小委員会座長として尽力いただき、闘病中だった2月も出席して下さいました。宮中で伝達される日まで存命であってほしかったのですが、(生前)内定の報に喜んでおられたと伺い、少し安堵しました」と伝えた。



2022年、喜寿のお祝い会で研究所員らと



2016年、メテオ打ち上げ成功を瀬戸熊理事長(左)と喜び合うニメケネディ宇宙センターで



2009年、惑星探査研究センターの開所式で瀬戸熊理事長と

2013年、鉄隕石の刀をダライ・ラマ法王14世に説明する



2020年、エジプト考古学博物館でツタンカーメン王の鉄剣の元素分析に立ち会う



聞き手の効果を検証して奨励賞

山之内さん ■ 情報処理学会



「真」が「思考の外在化における発話行為と聞き手の影響」を発表し、学生奨励賞を受賞した。人が思考を客観的に認知(メタ認知)する際、スケッチや発話などによる「外在化」が重要な役割を果たす。複数人の対話についての効果は多く議論され、気づきの共有

や批判によって相互理解が進むといわれる。それでは、独り言でも思考は外在化の影響を受けるのか。聞き手がしゃべらないロボットだったら。山之内さんが検証を進めた結果、独り言に對して聞き手が相づちを打った場合にのみ有意な差があったため、発話

による外在化の効果は、反応のある聞き手に発話する場合に限られると分かった。ロボットは発話しないため、話者と聞き手の対話は必須でないと考えられる。セッションの講評では「検証まで終了し、うなずくだけで結果が変わるといっては面白い。今後

が期待できる」とされた。一からロボットを作るのは初めてで大変だったそうで、山之内さんは「研究の発展性が評価され、うれしく思います。今野先生や研究室の先輩、同期のおかげで頑張れました。今後も研究に精励していきたい」と感想を寄せた。

歩行助ける慣性計測装置

入江主席研究員 ■ ロボシン優秀賞



情報処理学会第85回全国大会(3月2~4日、都内調布市の電気通信大で開催)の学生セッションで、山之内七穂さん(受賞時知能メディア工学専攻修士1年・現2年、今野将研究室II写

ロボット分野の主要学会(計測自動制御、日本機械、日本ロボットの3学会)が共催する「第28回ロボティクスシンポジウム(ロボシン)」は3月15、16日、和歌山県・白浜町のSHIRAHAMA KEY TERRACE HOTEL SEAMOREで開かれ、入江清・未来ロボット技術研究センター主席研究員II写真IIの

「最適化アプローチに基づく両靴装着IMUからの歩行運動推定」が優秀賞を獲得した。IMUは加速度、回

転、位置変化などを検出・計測する慣性計測装置。小型の慣性センサーを靴に取り付け、歩行時の足の運びや移動経路を推定する。従来の方法と比べ、全てのデータを一度に用いて最適化により推定するV両足の情報を統合する新しい方法を提案した。この2点により、推定精度を高められ

ることを示した。将来、障がい者のリハビリや雪道歩行などを助ける仕組みが期待される。大会は毎年1回開かれ、査読を通過した論文が口頭発表される。今回は論文77件が発表され、最優秀賞1件、優秀賞2件が選ばれた。入江主席研究員は受賞に「大変光栄です。実際に社会で使われる技術に発展させられるよう、今後も研究開発に邁進していきたいと思えます」とコメントした。

デザイナー志望へ支援企画

秋山さん ■ 優れた体験設計に認証



一般社団法人体験設計支援コンソーシアム(CXDS)は4月18日、秋山華穂さん(知能メディア工学専攻修士1年II写真)が企画した「デザイナー志望学生への就職活動支援イベントの企画立案と運営」を、優れた体験設計事例として認証し表彰した。

知能メディア工学科・安藤昌也教授の研究室がユーザーエクスペリエンス(UX)デザイナーを志す学生向けに開いた第4回UX ROCKETS(昨年12月10日)で実施したもの。デザイナーを志望するもデザイナーの働き方に理解不足の学生

が多く、企業側も学生に寄り添った情報を提供できていない現状に着目。志望者が、どんな働き方をしたいかイメージしながら企業デザイナーの働き方を知ることができ、学生向け就業支援イベント「デザQ」を企画した。学生が自身と企業を分析することで望むデザイナー像へ理解を深める「デザイナー像×企業分析ワークショップ」や、

CXDSは「学生と企業とのミスマッチをなくすことを実現する優れた体験設計事例」とした。秋山さんは「認証をいただき光栄です。イベント設計で私一人で越えられない壁も多く、多くの方々のご協力を受賞できたと感じています。参加学生や企業の皆様、丁寧に指導してくださった安藤先生、研究室仲間感謝します」と語った。

令和5年度危険業務従事者叙勲が4月29日に発表され、教学センター(新習志野)の甲田豊満警備員が瑞宝双光章、富永健二運転手が瑞宝単光章に選ばれた。



富永運転手



甲田警備員

危険業務に叙勲 甲田氏、富永氏

令和5年度予算案を承認

3月28日、東京カーテンパレスで開かれた本学理事会・評議員会で、令和5年度予算案が承認された。

情勢による物価上昇、18歳人口の減少、定員管理厳格化の継続、日銀によるマイナス金利政策の長期化、補助金の傾斜配分など、引き続き厳しい要因が見込まれる。

本学は、令和4（2022）年5月15日に創立80周年を迎えた。年々教育・研究活動は活発化し、その成果がメディアでも多く取り上げられ、高い注目を集めている。開設10年目となる東京スカイツリータウンキャンパスでは、9月23日に来場者100万人を達成した。さらに、瀬戸熊修理理事長がモンゴルとの国際交流に功績があったとしてモンゴル国から国家勲章（北極星勲章）を受章。タイのバンコク国際貿易展示場で開かれたロボカップ22世界大会では本学「CUI Batis」がヒューマンイードリーグ・キッドサイエンス部門のサッカークラウド部門（優勝）に続き3度目の優勝（14、15年に続き2度目の優勝）。

デザイン科学科松崎元教授の「円柱形つまみの回転操作における指の使用状況について」の研究がイグ・ノーベル賞「工学賞」を受賞するなどの世界的活躍があった。令和4年度においても終息を見送らない新型コロナウイルス禍のなか、国際「科学技術の習得に実践」

高等教育を取り巻く環境

未だ終息を見送らない新型コロナウイルス禍は3年が経過し、高等教育機関においては、感染拡大防止が求められるなか、遠隔授業の質的向上や対面授業と遠隔授業の両立による学生満足度の向上など、教育研究活動の充実を図ってきた。

経営を取り巻く環境は、新型コロナウイルス禍の影響に加えて、世界

ナワクチンの職域接種にいち早く実施を決断した本学に謝辞を述べるとともに、職域接種及びインフルエンザワクチン同時接種の様子を視察した。引き続き、学生たちに充実した学修環境を与えるべく、さまざまな感染対策を講じたうえで、対面授業を中心とした教育・研究に力を注いでいく。

1 教育・研究

本学は、建学の精神を表現するために、「教育目標」並びに「学位授与の方針」「教育課程編成の実施の方針」及び「入学者受入れの方針」を定め、ファカルティ・ディベロップメントや外部研究費獲得のための施策等を強力に推し進め、教育及び研究の改革・改善に取り組みできた。また自己点検及び第三者評価等に、職域接種及びインフルエンザワクチン同時接種の様子を視察した。引き続き、学生たちに充実した学修環境を与えるべく、さまざまな感染対策を講じたうえで、対面授業を中心とした教育・研究に力を注いでいく。

情報教育においては、高校教育におけるプログラミング教育導入に対応すべく、文部科学省から認定を受けている「数理工学」を、令和4年度卒業・修了者のうち、希望する学生に限定して「NFT学位記」を発行した。今後もこれらの取り組みを進め、グローバルな規模で本学学生の学修記録が発信・公開され、新たなキャリア形成に活用していくための素養を入学段階で身に付けて教育プログラムを構築させる。

更には、学生の学修成果や経歴、在学中の経験を取り入れ、更にポリシーに沿った教育研究活動が行われているかどうかの評価を行い、必要な場合は見直しや新たな計画の策定を行うことにより、全学的な体制の下でPDCAサイクルを機能させている。

令和5年度予算の概要

への転換を図る。重点的に取り組んできた留年者や退学者の抑制策については、追加的な補習授業の実施や再試験制度及び特別評価制度の導入により、授業の到達目標や評価基準を維持しつつ、留年者及び退学者の減少に高い効果をあげてきた。

地域社会との連携については、包括連携協定を締結している県内17の市町等を中心に、今後も教育面を中心に協力関係を推進する。具体的には、地域の児童・生徒がロボットやロケットなどの最先端技術に触れる機会や理科の面白さに気づく機会（出前授業等）を増やすなど、地域における理工系人材の育成に寄与する活動を実施する。さらに、学生の卒業に伴い返却されるタブレット型端末の提供や、タブレット端末を活用したプログラミング教育の支援についても、本学の授業や研究と絡めながら継続的に実施する。また、本学の学生がまちづくりや地域のグローバル化推進のプロジェクトに参加する機会についても、連携市町と協議し今後も創出する。

研究及び産官学連携については、7つの研究センターと各学科の知を生かし、社会をより良くするための新しい知となる、最先端技術の開発と技術的プラットフォームや文化的なアウトプットを想像・設計・構築し社会に貢献する。また、「学校法人千葉工業大学産官学連携協議会」との連携を通じて、研究の活性化と産学連携の強化を推進する。さらに学内で、外部資金獲得のための支援プログラムを実施するなど、積極的に外部資金の獲得に取り組む。

千葉工業大学 令和5年度予算

資金収支

収入の部			
科目	令和5年度予算	令和4年度予算	差異
学生生徒等納付金収入	14,720,000,000	14,810,000,000	△ 90,000,000
手数料収入	245,000,000	245,000,000	0
寄付金収入	100,000,000	284,500,000	△ 184,500,000
補助金収入	1,102,400,000	1,106,000,000	△ 3,600,000
資産売却収入	0	22,600,000	△ 22,600,000
付随事業・収益事業収入	650,000,000	662,200,000	△ 12,200,000
受取利息・配当金収入	380,000,000	558,000,000	△ 178,000,000
雑収入	230,000,000	324,100,000	△ 94,100,000
前受金収入	2,710,000,000	2,722,000,000	△ 12,000,000
その他の収入	2,549,000,000	8,049,700,000	△ 5,500,700,000
資金収入調整勘定	△ 2,972,000,000	△ 6,013,800,000	3,041,800,000
前年度繰越支払資金	13,029,000,000	15,081,600,000	
収入の部合計	32,743,400,000	37,851,900,000	△ 5,108,500,000

支出の部			
科目	令和5年度予算	令和4年度予算	差異
人件費支出	7,222,400,000	7,592,400,000	△ 370,000,000
教育研究経費支出	4,813,400,000	5,036,400,000	△ 223,000,000
管理経費支出	1,209,100,000	1,341,600,000	△ 132,500,000
施設関係支出	81,100,000	694,000,000	△ 612,900,000
設備関係支出	574,700,000	637,700,000	△ 63,000,000
資産運用支出	1,014,000,000	6,583,800,000	△ 5,569,800,000
その他の支出	2,685,000,000	3,011,500,000	△ 326,500,000
[予備費]	300,000,000	300,000,000	0
資金支出調整勘定	△ 400,000,000	△ 374,500,000	△ 25,500,000
翌年度繰越支払資金	15,243,700,000	13,029,000,000	2,214,700,000
支出の部合計	32,743,400,000	37,851,900,000	△ 5,108,500,000

事業活動収支

事業活動収支			
科目	令和5年度予算	令和4年度予算	差異
学生生徒等納付金	14,720,000,000	14,810,000,000	△ 90,000,000
手数料	245,000,000	245,000,000	0
寄付金	100,000,000	284,500,000	△ 184,500,000
経常費等補助金	1,052,400,000	1,072,300,000	△ 19,900,000
付随事業収入	650,000,000	662,200,000	△ 12,200,000
雑収入	230,000,000	324,100,000	△ 94,100,000
教育活動収入計	16,997,400,000	17,398,100,000	△ 400,700,000
人件費	7,222,400,000	7,592,400,000	△ 370,000,000
教育研究経費	7,379,200,000	7,552,900,000	△ 173,700,000
(内、減価償却額)	2,565,800,000	2,516,500,000	49,300,000
管理経費	1,759,800,000	1,976,800,000	△ 217,000,000
(内、減価償却額)	550,700,000	635,200,000	△ 84,500,000
徴収不能額等	0	0	0
教育活動支出計	16,361,400,000	17,122,100,000	△ 760,700,000
教育活動収支差額	636,000,000	276,000,000	360,000,000
教育活動外収支差額	380,000,000	558,000,000	△ 178,000,000
経常収支差額	1,016,000,000	834,000,000	182,000,000
特別収支差額	95,000,000	126,000,000	△ 31,000,000
基本金組入前当年度収支差額(予備費含む)	1,111,000,000	960,000,000	151,000,000
基本金組入額合計	0	△ 14,900,000	14,900,000
当年度収支差額	1,111,000,000	945,100,000	165,900,000
前年度繰越収支差額	△ 2,195,700,000	△ 2,840,800,000	645,100,000
基本金取崩額	26,700,000	0	26,700,000
翌年度繰越収支差額	△ 1,058,000,000	△ 1,895,700,000	837,700,000
(参考)			
事業活動収入計	17,477,400,000	18,090,100,000	△ 612,700,000
事業活動支出計	16,366,400,000	17,130,100,000	△ 763,700,000

①【教育活動収入】170.0億円(前年度174.0億円 前年度比4.0億円減)

学生生徒等納付金は前年度比0.9億円減の147.2億円とし、全体では4.0億円程度の減少を見込んでいる。

②【教育活動支出】163.6億円(前年度171.2億円 前年度比7.6億円減)

①人件費は、退職金が0.9億円減少、その他の人件費も減少する見込みで、前年度比3.7億円減の予算とした。人件費比率は41.6%(前年度42.3%)である。

③【基本金組入額】△0.3億円(前年度△1.1億円 前年度比0.8億円増)

④【特別収入】特別収入は施設設備補助金等を見込み1.0億円を計上した。特別支出の予定はほとんどない。

⑤【特別支出】特別収入は施設設備補助金等を見込み1.0億円を計上した。特別支出の予定はほとんどない。

⑥【基本金組入前当年度収支差額】11.1億円

⑦【基本金組入額】△0.3億円(前年度△1.1億円 前年度比0.8億円増)

⑧【特別収入】特別収入は施設設備補助金等を見込み1.0億円を計上した。特別支出の予定はほとんどない。

⑨【特別支出】特別収入は施設設備補助金等を見込み1.0億円を計上した。特別支出の予定はほとんどない。

⑩【基本金組入前当年度収支差額】11.1億円

⑪【基本金組入額】△0.3億円(前年度△1.1億円 前年度比0.8億円増)

⑫【特別収入】特別収入は施設設備補助金等を見込み1.0億円を計上した。特別支出の予定はほとんどない。

⑬【特別支出】特別収入は施設設備補助金等を見込み1.0億円を計上した。特別支出の予定はほとんどない。

⑭【基本金組入前当年度収支差額】11.1億円

⑮【基本金組入額】△0.3億円(前年度△1.1億円 前年度比0.8億円増)

⑯【特別収入】特別収入は施設設備補助金等を見込み1.0億円を計上した。特別支出の予定はほとんどない。

⑰【特別支出】特別収入は施設設備補助金等を見込み1.0億円を計上した。特別支出の予定はほとんどない。

⑱【基本金組入前当年度収支差額】11.1億円

⑲【基本金組入額】△0.3億円(前年度△1.1億円 前年度比0.8億円増)

⑳【特別収入】特別収入は施設設備補助金等を見込み1.0億円を計上した。特別支出の予定はほとんどない。

㉑【特別支出】特別収入は施設設備補助金等を見込み1.0億円を計上した。特別支出の予定はほとんどない。

㉒【基本金組入前当年度収支差額】11.1億円

㉓【基本金組入額】△0.3億円(前年度△1.1億円 前年度比0.8億円増)

㉔【特別収入】特別収入は施設設備補助金等を見込み1.0億円を計上した。特別支出の予定はほとんどない。

㉕【特別支出】特別収入は施設設備補助金等を見込み1.0億円を計上した。特別支出の予定はほとんどない。

㉖【基本金組入前当年度収支差額】11.1億円

㉗【基本金組入額】△0.3億円(前年度△1.1億円 前年度比0.8億円増)

㉘【特別収入】特別収入は施設設備補助金等を見込み1.0億円を計上した。特別支出の予定はほとんどない。

㉙【特別支出】特別収入は施設設備補助金等を見込み1.0億円を計上した。特別支出の予定はほとんどない。

㉚【基本金組入前当年度収支差額】11.1億円

㉛【基本金組入額】△0.3億円(前年度△1.1億円 前年度比0.8億円増)

㉜【特別収入】特別収入は施設設備補助金等を見込み1.0億円を計上した。特別支出の予定はほとんどない。

㉝【特別支出】特別収入は施設設備補助金等を見込み1.0億円を計上した。特別支出の予定はほとんどない。

㉞【基本金組入前当年度収支差額】11.1億円

㉟【基本金組入額】△0.3億円(前年度△1.1億円 前年度比0.8億円増)

㊱【特別収入】特別収入は施設設備補助金等を見込み1.0億円を計上した。特別支出の予定はほとんどない。

㊲【特別支出】特別収入は施設設備補助金等を見込み1.0億円を計上した。特別支出の予定はほとんどない。

㊳【基本金組入前当年度収支差額】11.1億円

㊴【基本金組入額】△0.3億円(前年度△1.1億円 前年度比0.8億円増)

㊵【特別収入】特別収入は施設設備補助金等を見込み1.0億円を計上した。特別支出の予定はほとんどない。

㊶【特別支出】特別収入は施設設備補助金等を見込み1.0億円を計上した。特別支出の予定はほとんどない。

㊷【基本金組入前当年度収支差額】11.1億円

㊸【基本金組入額】△0.3億円(前年度△1.1億円 前年度比0.8億円増)

㊹【特別収入】特別収入は施設設備補助金等を見込み1.0億円を計上した。特別支出の予定はほとんどない。

㊺【特別支出】特別収入は施設設備補助金等を見込み1.0億円を計上した。特別支出の予定はほとんどない。

㊻【基本金組入前当年度収支差額】11.1億円

㊼【基本金組入額】△0.3億円(前年度△1.1億円 前年度比0.8億円増)

㊽【特別収入】特別収入は施設設備補助金等を見込み1.0億円を計上した。特別支出の予定はほとんどない。

㊾【特別支出】特別収入は施設設備補助金等を見込み1.0億円を計上した。特別支出の予定はほとんどない。

㊿【基本金組入前当年度収支差額】11.1億円

【収支差額】以上の結果、当年度収支差額は11.1億円の収入超過、前年度繰越収支差額は22.0億円のマイナスであるので、翌年度繰越収支差額は10.6億円の支出超過となる予算である。(全文はウェブに掲載)

新任紹介

（敬称略）着任の感想や抱負を話してもらいました

教員

駒野 雄一 教授
 （情報ネットワーク学）



アットホーム感のある良い教育環境のなかで、学生一人ひとりの成長を手助けするとともに、安全・安心な社会を築く技術の研究・開発していきます。

東本 崇仁 教授
 （情報ネットワーク学）



親切的な先生方とともに、新しいものに積極的にチャレンジし、千葉工大が持つ古い部分を温め、新しい部分を認知できるように励みたいと思います。

小橋 知季 准教授
 （建築学科）



学生が専門知識を身に着けたと実感できる授業

の構築、ならびに、研究成果を学外へ定期的に発信できる研究室の運営に、全力で取り組んで参ります。

青木 友希 准教授
 （デザイン科学科）



現場でのデザイン経験を生かしながら、本学の卒業生として、デザイン科学科を盛り上げていきたいと考えております！

富山 豊 准教授
 （教育センター）



単にモノをつくらせて終わりではなく、技術の社会へのインパクトや、人間の生活にとっての意味を考えられるような、視野の広い学生を育てられるように頑張ります。

菅根 海人 助教
 （応用化学科）



長い歴史を持ちながらも新しいことにチャレンジ

近藤 小雪 助教
 （生命科学科）



親身になってくれる方が多い職場環境で、教育と研究の両立を目指して励んでまいります。

重 歩美 助教
 （教育センター）



専門が教育分野ということもあり、学生にも人と接することにより興味を持ってもらえるような授業を展開していきたいと思えます。

職員

千葉 一人
 （大学事務局 部長）



優れた面が多い千葉工大で、今までの経験を生かしながら、さらに盛り

上げていきたいと思えます。

二階堂 卓寿
 （総務部 グループ長 補佐）

明るく、連携のとれた丁寧な対応が印象的な職場です。私も同様に懇切丁寧な対応ができるように頑張ります。

後関 幸枝
 （入試広報部 事務職員）

素敵な笑顔あふれる明るい雰囲気職場です。一日も早く、戦力になれる



どのように頑張ります！

中村 吉臣
 （施設部 技術員）



どんなことにも臨機応変に対応する少数精鋭部隊です。常に「効率化と無駄を省くこと」を意識して行動したいと思えます。

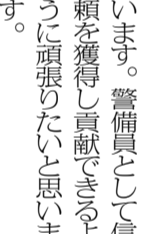
岩井 隆浩
 （総務部 警備員）



学生と接する機会が多く清々しい気持ちで勤務しております。早く業務



を覚えて、快適な学生生活と職場環境に貢献していきたいです。



増田 行男
 （総務部 警備員）

目的意識に沿った行動を心掛け、日本の未来を担う学生教育基盤の充実・発展に貢献していきたいと思えます。

を覚えて、快適な学生生活と職場環境に貢献していきたいです。

板垣 正孝
 （教学センター 警備員）



目的意識に沿った行動を心掛け、日本の未来を担う学生教育基盤の充実・発展に貢献していきたいと思えます。



企業復活に抜本変革必須

角田教授は2022年に上記学会を設立。著書

「デジタル人材育成宣言」を出版しており、本作はその3部作の完結編となる。

編集だより



「私がお煎餅好きなこと知ってたの？」故松井孝典学長から意外な言葉

「50m走で一位だったよー」と話を聞くものの、心のどこかで自分に重ね、まぶれだろうと勝手に思っていた。

た矢先、「面白いこと言われないと笑えないよ」と学長。慌てた取材陣が「手土産のお煎餅が硬くて美味しいんです」。この一言がお煎餅好きの松井学長の心をくすぐり、21年大学案内での素敵な笑顔が誕生したとは、信じがたいことだろうか。

突然すぎる松井学長とのお別れ。しみみりしながら、これまでの取材や原稿確認等のメールのやりとりを辿ってみました。

大橋 慶子

四季雑感



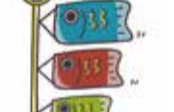
5月とはいえ、なかなか暑い日が増えてきたこの頃。我が家では昨年から子どもが小学生になり、5月は運動会の時期となっている。小さいころから運動が苦手な足速い子たちがもうピカピカのシールとは無縁だった私。そんな私は昨年、子どもから練習で

「50m走で一位だったよー」と話を聞くものの、心のどこかで自分に重ね、まぶれだろうと勝手に思っていた。

5月8日から本学でもコロナ前の状況に戻りつつある中で、今年も学生の活躍を間近に見られる機会が増えるのではないかと楽しみにしている。

山田 沙織

同窓会



大学を訪ねるたびに、約三十年前に駅前

おこし」がテーマで農村の働き手である男達の夢と家事や雑用

劇団は廃業したが、日本人の暮らしをテーマに全国各地を巡演しミュージカルに縁のないサラリーマンや農村地域の人々に絶大な人気を誇っていた。今、コロナによって生活体系が変わり対面からリモートが当たり前になったが、またこのように劇団に元気づけてほしいと思う今日この頃である。

山下 信夫

新生デジタル部門宣言
 日本企業が復活するためにはデジタル部門・IT部門・情報システム子会社の抜本的な「組織変革」が必須である

新生デジタル部門宣言
 著者：角田仁・金融・経営リスク科学科教授
 発行：クロスメディア・パブリッシング
 価格：1408円（税込み）